

(学校改革)

学校のイノベーション

～ 子供たちが変わりゆく社会を生きぬくために ～

大阪市立梅香小学校 玉川実二

1. 発表首題設定の理由

子供たちが、近い将来活躍する社会はどんな社会だろうか？

米国のある教授は、「米国で 2011 年度に入学した小学生の 65%は、大学卒業時、今は存在していない職に就くだろう」と推測している。現在小学校に在籍している 6 年生のことを指している。遠い先の話ではなく 10 年～15 年後の子供たちが活動するフィールドを予測したものである。

このような変化の激しい社会に対応するためには、従来の講義型一斉授業だけではなく子供の「主体的、対話的学び」を主眼に置いた「能動的学修法」が重要である。例えば、AI や ICT の進展による社会構造の変化に対応するためには、これまでの知識・記憶力偏重で画一的な教育から、自らが課題を発見し解決する能力などが問われる。また、グローバル化する社会においては、他の国の人と接する機会が増え、プレゼンテーションやディスカッションで自分を表現し、はっきりと自己主張することなどの発信力が求められる。

今回の発表首題については、単にアクティブラーニングや 21 世紀型能力といった言葉ではなく、その背景にあるものについて理解を促すために、民間企業 30 余年の経験を含め、広く教員に発信するために設定したものである。

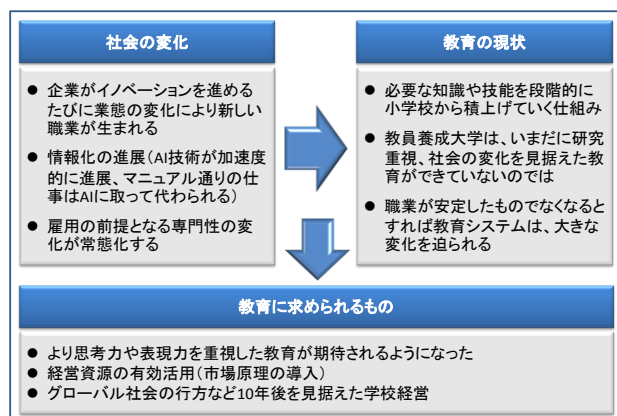
2. 発表の趣旨

なぜ、学校のイノベーションが必要なのか？

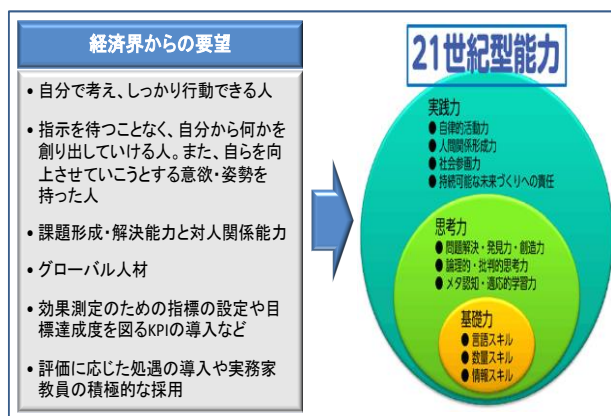
以下の表に、社会の変化と教育の現状から抽出された、これからの教育に求められるものを定義した。(あくまでも社会の変化の一側面について記述したものである)

また、グローバル化の進展により、改めて日本教育の課題や、これからの社会で必要とされる能力についての課題が浮き彫りになってきている。

社会の変化から教育に求められるもの



経済界からの要望と必要とされる能力



上述のように社会構造の変化やグローバル化に伴い、「異質な集団で交流ができ」「自律的に活動できる」能力などが求められる。

これらの能力取得を少なからず意識した本校の取組みのエッセンスを次項で紹介する。

3. 学校運営の概要

現在、そして将来を見据えて、今すべきことは何か？

平成 25 年度より直近の課題として、しっかりとした基礎的学力（スキル）を身に付ける取組みやグローバル社会を生きぬくための英語コミュニケーション力の育成、そして、これらの取組みを効果的かつ効率的に行う為の ICT 活用による教育改革を推進している。

これらの取組みの中では、定型的なスキル育成に加え、コンピテンシー（成果を導く行動特性）を養うことを意識している。何故なら、このコンピテンシーの習得こそが、これからの社会を担う人材に最も必要とされる能力の一つであるからだ。



< 重点を置く取組みの特徴（概要） >

経営資源の有効活用：市場原理を導入することにより、民間のリソースを有効活用した放課後自主学習を実施している。また、BMC においては、英語教育企業のモジュール学習キットを活用し、効果的な英語教育を実施している。（あらゆるリソースを探求する）

グローバル化への対応：Native English Teacher による All English Class を 1 年生から 6 年生までの全学年で実施。また、国際交流やオーストラリア州立小学校との交流を通して他の人に自分を表現する技術を学んでいる。（異質な集団で交流し、自律的な活動を推進）

効果的・効率的な教育の推進：ICT を活用し、子供たちにとって効果的な授業等を提供するとともに、教員にとって効率的な取組みを推進している。また、交流活動についてはスカイプを積極的に活用し、英語教育に加え異国の文化などに触れるようにしている。

4. 学校運営の成果と今後の課題

平成 25 年度より実施している重点を置く取組みについては、毎年、その内容をブラッシュ・アップし、概ね順調に推移している。（詳細は、学校運営に関する計画を参照）

< 今後の課題 >

これまでの学校運営基盤を堅持しながら、更なる能動的学修法を迫及し、主体的・協働的・対話的な学びを通して“子供たちが変わりゆく社会を生きぬくために”必要とされるスキル及びコンピテンシーを育んでいかなければならない。